midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

5月号の１枚：相模原さくら祭、森のかるた大会

［巻頭言］今年の5月9日で17年目に入る

当会会員の森に向かう真摯な行動は必ずや、偉大なる問題を解決してくれる

17年前の3月末、陣馬山の下山道で暗い森に異常を感じた。4月29日（当時、緑の日）の新聞紙上でWWＦジャパン（世界自然保護基金日本委員会、本部・英国ロンドン）が、世界の森林減少の危機を報じていた。WWＦ日本委員会・事務局にお会いして森林減少、森林荒廃の理由をお聞きした。理由は、違法伐採・農地確保のための森林焼却、森林火災等であった。森林破壊・荒廃は内外共、由々しき事態になっていて、それを止める為にドイツのボンに本部がある国際認証を作って世界的に森林保護運動を展開しているが当時、日本ではこの国際認証の森は、未だなく、鋭意この運動に取り組んでいるとの事。

森林は、空気・水・ミネラルなどの栄養分を補給する土壌を補給してくれる、この三大要素がなければ、すべての生態系は死滅する。急速に進む人類死滅に繋がる事を他人事として座視できない。当会もこの運動に加わることにし2005年10月にFSC認証を取得した。

様々な体験を経て活動の１６年目を迎えた昨年の年度総会で、今後15年の活動目標として、[1]若者による森つくり（後継者育成）、[2]「我が国の森林・林業の復権」、を採択した。これからが本当の力量を試される。

当会会員の森に向かう真摯な行動は必ずや、この偉大なる問題を解決してくれるものと確信している。同時に、当会を支えて下さる国・企業・研究機関・会員の皆さんのご支援に応える為に、一歩でも目的に近づく事だと日々の努力を積み上げている。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2013.05

5月 4日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
5月18日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]相模湖嵐山の森

4月20日（第三日曜日）

数日前の予報では雨となるはずの日曜日。しかし、低気圧の進み具合が遅れたお蔭で何とか活動はできそうだ。相模湖大橋に差しかかるころ嵐山が眼前に迫るのはいつものことだが、その山肌をやわらかく、かすむように包む木々の佇まいはこの季節ならではのもの。「緑」と一口にいうけれど、そこにはどれほどの多様な色彩が満ちあふれていることか。樹種ごとに、また時の移ろいとともにそれらは千変万化の色合いを示す。やがて濃い緑に収斂していくまでのわずかな期間。林縁にはヤマブキ（右、上）、林床にはニリンソウ（右、下）が咲き誇り、梢ではイカルやメジロ、シジュウカラがそれぞれの今を謳歌する。生命あふれるこの様を北国では「山笑う」という。長く厳しい冬を耐え、春を待ちわびた人々の心情を見事に表した言葉である。

さて、本日の参加は１０３名。「生命の森宣言東京」から３０名近くの参加があったこともあり、久々の大人数となった。午前中、川田さんと私は「生命の森宣言東京」の方々を森にご案内（下、左）。森林の施業や役割についてお話しする。

お花畑は梅の剪定。老木である上に樹勢が弱っているため、当然のこと青梅の収穫は望めない。若木に更新してよいかどうかは山主・鈴木さんの了解が要る。さてどうするか。という訳で、ひとまずは枯れかけた枝を整理することと相成った。これに丸一日がかり。さすがのメンバーも疲れた様子を隠せない。

高井戸中は森林整備班の石井さん、東海大の杉山先生のサポートを受け、枝打ちと欠損木の間伐を行う。取り組み当初からは見違えるほどの森に育っているとは石村さんの感想。私も後から見に行ったが、林床植生の復活には目を見張った。６月には植生調査を行い、なみすけの森の変化を記録していくという。中学生パワー、恐るべし。

一方、フォレストノバは今回もいくつかの班に分かれた活動を展開する。新入生のための森林散策、高井戸中のまな板製作のサポート（下、中）、間伐体験、仮置き場の柱材づくり（下、右上）等々。午後からの山菜観察グループは主にノビルを収穫した模様である。この季節の嵐山には他にもワラビ、ゼンマイ、タラノメ、フキ、ヤブレガサ、モミジガサ、ミツバアケビなどがそこかしこにあふれている。私は基地周辺でヤブカンゾウを摘んだ。おひたし、酢味噌あえにすると美味。食べられるもの以外にもクロモジ、ヒトリシズカ、シロバナエンレイソウ、スミレ類の花々が新緑に彩りを添えていた。嵐山の森の恵み、春の豊かさを改めて感じた一日であった。

内野　郁夫（本会、理事）

※今月は相模原市民桜まつりに出展したため、小原本陣の森の定例活動は行いませんでした。

[報告1]
相模原市民桜まつりに参加

桜が咲き誇っていた景色からだんだんと鮮やかな緑色が目立つ景色に移り変わり、四季の中でもたくさんの変化が見られる春らしい景色になりました。

今回の桜まつり、ForestNova☆としては、森の癒しの効果や活動の楽しさ、生きている者たちが関わることの面白さだけでなく、森のおそろしさや危険さも魅力とし、「森の魅力を感じてもらう、知ってもらう」という目的でブース出展をさせて頂きました。

出展内容としては、仮想森林という名目で、実際の森の中に入ったような感覚を味わえる空間を目指し、小原や嵐山から採ってきた植物や土、端材や枝で作ったオーナメントの展示と、その空間の中での木工体験として枝から作るストラップの販売を行いました。私達にとっての今回の桜まつりは、私たちが森に入ったことで実際に感じた魅力や感覚を様々な方に知ってもらいたい。文章や人から聞いた知識だけでなく、自身の五感で感じる実体験を通して本当の意味で知り理解してもらいたい、という思いから始まりました。担当が二人だったため、意見の食い違いがあったり言葉の意味が二人で違ったりと難しい面もありましたが、「本当の理解を」ということに関しては二人共に揺るぎないものでした。

当日は雨でブース内が暗くなってしまったり、途中で中止になったりとトラブルもありましたが、無事に終えることが出来たと思います。また、企画内容での反省点として、木工体験では予想以上に割れやすい材が混じっていたこと、鋸以外の道具は置いておく場所を固定していなかったため、どこに何があるかの把握ができていませんでした。また仮想森林では植物や土の配置など、当日にならないとわからない事も多く、スタッフにも十分な説明が出来なかった等の反省点が出ました。今回出てきた反省点はしっかりと次にいかし、良かったところは残したまま、今後の活動をより良いものにするために精進していきたいと思います。

最後に、今回の桜まつりでは全体統括である緑のダムの方々はもちろん、外部からスタッフとして来て下さった方々、知り合いで遊びに来て下さった方々など、たくさんの方々に助けてもらいながら交流することができました。今回のブースは、皆様の手助けがあったからこそ、無事に終ることができたのだと思います。本当に有り難う御座いました。

川﨑　茜音（Forest Nova）

[報告2]
北鎌倉明月荘の会の活動をご紹介します

最近緑のダムと交流がはじまった北鎌倉明月荘の会の活動をご紹介します。

明月荘は、実業家・石橋又義氏により昭和21年に建てられた屋敷である。敷地約2600㎡、約80坪の住宅と広大な日本庭園からなり、昭和30年代には離れの茶室が建てられた。戦後間もない時期に建てられた明月荘は、戦前の中流階級の建築、庭園、生活文化を具体的に知ることの出来る遺構として、その遺構が戦争

と高度成長により殆んど残っていない現在、末永く維持保存していかなければならない貴重な文化財である。

2013年4月、神奈川県と神奈川まちづかい塾は、「北鎌倉明月荘保全協働事業協定」を締結、締結に際し、周辺の樹木林・竹林も協定範囲に入り、保全対象は15000㎡に拡大。以後地域の諸団体、住民と共に、毎月精力的に手入れ活動を行い、かつ建物修復工事資金調達のための文化活動を展開している。

小林　紘子（北鎌倉明月荘の会）

[報告3]
小原ライトアップ

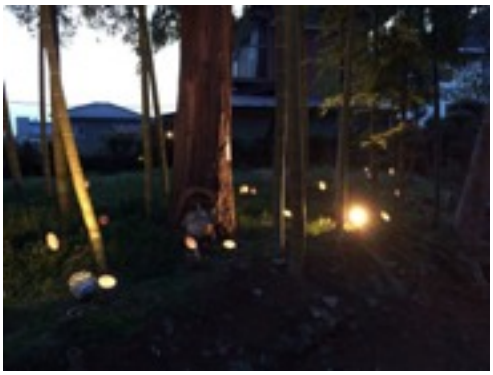
先月の3月29日に相模湖小原地域でライトアップイベントが催されていました。この小原ライトアップとは、小原地域の町おこしの一環として数年前から開催されており、神奈川県で唯一残されている小原本陣や街道沿いに竹の灯篭や行灯を置き、明かりを灯すイベントです。Forest Nova☆も2年前から参加させていただいています。また当日は小原地域の方だけでなく、千木良や与瀬からも多くの方が見に来られていました。

昨年度、Forest Nova☆では小原の方から小原の地域や森について、もっとお話を聞きたいと思い、事前に小原の方々にインタビューをして、聞けたことや逆に話を聞いているうちに聞きたくなったことをまとめ、当日に質問をしたり、聞いた内容や普段の交流の中から小原についてのムービーを作成、上映することができました。

今年度は去年同様、竹の灯篭づくりや小原本陣にある竹林に竹の灯篭を置いたり、他の地域の方が主催した餅つき体験及び小原で採れた大豆を使用した石臼引き体験のお手伝いを行いました。最初、Forest Nova☆の人数が少なかったのですが、一人ひとりが判断、行動することができたのでスムーズに準備ができました。また準備を終えると、小原地域の子どもたちが私たちに駆け寄って、「一緒にサッカーをしよう」と言ってくれました。一緒にサッカーをすることで、今までは元気で少しやんちゃという印象をもっていた子が、サッカーの途中で転んでしまった子に対して、「大丈夫か」と声をかけ、心配している様子が見れ、子どもの成長の早さに改めて驚きを覚えました。また自分の子どもの頃が十年も昔なのだな、と懐かしく思ってしまいました。

ライトアップは日が暮れてから始まり、Forest Nova☆では、このイベントが始まる前に自分が小原の方々に聞きたいことをメーリングリストを利用して、発表しました。私は自分がまだ大学に入る前のForest Nova☆と小原との関係や二月にあった大雪の中、どのように小原の方々は過ごしていたのか、聞いてみたいと思いました。聞きたかったこと全てを聞くことは出来ませんでしたが、新入生を含め、また新しくForest Nova☆が始動する四月以降に向け、少しでも小原の方々とお話をすることができ、本当に良かったと思います。次回はより多くのメンバーや緑のダムの方々も呼び、もっと大勢の人で小原のお祭りを盛り上げたいと思っています。

釜谷　優太（Forest Nova）



[報告4]
環境カフェあざぶ、にて事例報告を行いました

3月9日に行われた麻布大学環境ワークショップ2013、環境カフェあざぶ、「山・川・海が大ピンチ！」にて、山からの報告として、中学生の取組みを中心に事例報告をさせていただきました。

今回は荒廃する人工林の再生に取り組む本会の活動紹介や、国際認証の理念、中学生にとっての森づくりとは、という話に加え、相模湖若者の森づくりで目指したいグランドデザインと称して森づくりの新しい価値について考えていることについてお話させていただきました。

まず、荒廃する人工林の再生に対する方法として、森林整備だけでなく、間伐材の活用、そのための流通を始めとする経済性、そのための施策が行われていること、特に本会では取得している国際認証のための科学的調査を行っています。毎木調査や植生調査などがこれに当たります。一方で、これらの手法は森を細かい視点で見ていく手法である意味ヨーロッパの科学が目指してきたものです。要素還元主義などといったりするそうです。木１本１本を見ていても森全体を見ていないのではないか、そういった思いがあります。

もう一つの価値は環境教育としての視点です。森林体験教室のほとんどが体験（＝trial）であって同じ斜面に毎月通い、実際の問題に取り組むという体験（＝experience）であることの価値、さらには協力なくしては活動が成り立たないという道徳的な価値については既に報告した通りですが、繰り返し通うことで森への本当の愛着、森があって我々が生かされていることの実感をもつことが新しい森の価値の創出につながると考えています。この2つの視点から森を複雑系科学としてとらえていきたい、というのが今回の事例報告の主な内容です。

森林整備、植生調査、積み木で文化財を再現すること、どんな場面でもそれを専門としている方からご指導いただいていること、その一流のご指導がこの活動を支えていることは間違いありません。このことに感謝の気持ちを忘れることなく、新しい森の価値、複雑系科学としてとらえる森の価値についてこれから考えていきたいと思います。

またこの事例報告の様子は本会YouTube公式チャンネルでもご覧いただけますので、ぜひご覧ください。

宮村　連理（本会、理事）

[報告5]
カブトムシプロジェクトより報告

体験学校参加者のための下見に参加しました。ついでにカブトムシ牧場の３号の「天地返し」+幼虫の確認+カブトムシ堆肥収穫を実施しました。

昨年１１月に腐葉土がたくさん残っていた３号牧場に、カブトムシの幼虫を集結させて置いた約１７０匹が生存していました。「カブトムシ堆肥」も多量に収穫できました。

一昨年は腐葉土がすべて食べ尽くされて、「カブトムシ堆肥」が大量にできました、が、残りの幼虫の餌が無くなってしまい、その餌の確保に苦戦しました。

幼虫と堆肥を収穫しながら、残った腐葉土を「天地返し」をしました。さらに新年早々にお花畑班の皆さんに集めてもらってあった落ち葉を追加して、満杯の積み込みになりました。年末にはまた、沢山の「カブトムシ堆肥」が期待できます。

収穫した「カブトムシ堆肥」は山主の鈴木さんの畑で農業を始めた皆さんに使ってもらえることになりました。目と鼻の先での野菜作りですから、収穫期には美味しい野菜が期待できるかも？

斎藤　憲弘（本会、 理事）

[事務局からの
お知らせ、お願い]

相模湖嵐山の森でカスタムストリートビューの公開を準備しています

google map上の機能のひとつであるストリートビューを利用したことがあるかと思いますが、この360度パノラマ写真を自分で撮影し、公開する機能を活用し、相模湖嵐山の森の主要なポイントを撮影し、ウェブ上でご覧いただけるよう準備を進めています。すでに「なみすけの森づくり」プロジェクトで作業を行っている地点と小原本陣の森基地周辺での撮影を終えています。近日中に試験公開し、運用が可能となりましたら、様々な地点での撮影、公開を行っていきます。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

●今年度の会費を納入いただいた方です。ご支援ありがとうございます。
川崎茜音、世持由美子、新井一紀（敬称略）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版